

旅番組紀行



羊蹄医師会
しりべし耳鼻咽喉科

八木 克 憲

娘から海外旅行に行きたいと言われ、少し思いを巡らせた。40年以上前の学生時代には海外旅行に行ったことはあるが、その後は確かに新婚旅行も含めてすべて国内のみだった。昔から旅行番組が好きで、毎週日曜日の午前放送されていた「兼高かおる世界の旅」が楽しみだった。パンアメリカン航空のボーイングが映し出されて、『八十日間世界一周』のテーマ音楽が流れる。いろいろな場所や国々は非常に魅力的だった。子どもの頃は毎日毎日近所遊びの繰り返しで、海外なんかは非現実的で夢のまた夢だった。ネットで「兼高かおる世界の旅」を調べてみたら、30年間放送されて1990年に終了したとのこと。現在はスカパーで再放送しているらしい。少し興味が出てきたので後日詳細を調べてみたい。

そんな影響もあり、大学時代の夏休みにスペイン・ポルトガルを1ヵ月間、バックパックを背負って歩いた（写真：スペイン、アルハンブラ）。当時は「地球の歩き方」など日本の旅行本はなく、唯一あったのは「欧州1日3600円の旅？」という翻訳本だった。本に書いてあった民宿や学生寮など、どこに行っても外国人だけだった。公園で野宿もした。英語は話せなかったが、スペイン・ポルトガルは英語があまり通じず、相手の顔を見ながらのジェスチャーでほぼOKだった。

開業して時間的に余裕が出てきたので、テレビの旅番組を見るようになった。国内の旅番組もとても多くなったが、見るのはBSの海外もの。現在も放送されている「世界ふれあい街歩き」（NHK）はなかなかいい。「大人のヨーロッパ旅行」も良かったが、いつの間にか終了してしまった。その後もいろいろな海外旅番組が放送されている。「世界遺産」「世界水紀行」「世界各街停車の旅」「世界一周魅惑の鉄道紀行」「世界の船旅」「トラベリックス世界体感旅行」「地球絶景紀行」「地球バス紀行」「欧州列車旅行」「ホテルの窓から」などなど。そんな番組の中、「ヨーロッパ裏路地紀行」はとても良かった。10ccの「I'm Not In Love」の音楽が、斉藤由貴さんの語り「花の都、水の都、霧の都、四季の色合いにそまる……華やかな表通りの一歩向こうに街の素顔が待っている」に乗せて流れてくる。哀愁に充ちていた。大変残念だったが、こちらもいつの間にか終わってしまった。

そんなこんなで、情勢が不安定になる前に、ウィーン（オーストリア）とブタペスト（ハンガリー）

を家族で旅行した。両都市ともいろんな人種が入り混じっていて差別もあまりなく、とても美しい街並みで、家族旅行には非常にいいところだった。

昔のように、一人でぶらぶら当てもなく歩き、公園で野宿などはもうできない年齢になってしまった。安全だったヨーロッパも、今は難民問題を抱え、テロ活動、また邦人留学生が事件に巻き込まれたり、いい状況ではなくなったようだ。いつかまた、知らない地域をぶらぶらと呑気な一人旅をしてみたいと思う。

これから先、ヨーロッパのみならず、他の地域すべてが安全に平和になってくれたら、と願っている。

